

学力向上に向けた取組

函館市立宇賀の浦中学校

1 課題

- ・ 基礎的・基本的な知識・技能の習得と定着
- ・ 学習に対する意欲の向上、および学習習慣の確立

2 課題解決の具体策

- 1 グループ学習などの「学び合いの場」づくりとそれを取り入れた授業改善
- 2 学習カード・ワークの活用および、コース別学習の実施

3 取組の概要

1 についての取組み

校内研修課題に、「個を生かした指導」をすすめる授業の工夫のありかたを設定し、グループ学習を活用した授業改善に取り組んだ。また、各教科ごとにその教科特性に合わせてグループ化し、全教科で授業公開しながら授業改善に取り組んだ。



2 についての取組み

各教科とも、学習カードや自己評価表を活用し、生徒が学習に対して目に見える形でその成果が見えるような工夫を行った。また、カードを「繰り返し学習」「先行学習」「表現活動」などのさまざまな場面に活用することで、生徒の学習に対する姿勢をただす仕掛けや、意欲向上を期しながら実践してきた。

選択教科を活用し、新教育課程への移行と言う要素を踏まえ、数学の「学校選択」の形態をとりながら、生徒の理解の程度に合わせながら、アプローチを変えたコース制の学習形態をとり、習熟度や個人の理解の状況に応じたきめ細かい指導を少人数単位で行った。

放課後や長期休業中の「学習会」を定期的で開催して、学習習慣の定着を図った。

4 成果と課題

全国学力学習状況調査やC R Tなどの調査において、学力や意欲のポイントが好転した結果が見いだせている。また、学習に対する生徒の取り組み方が向上した。全体の学習意欲の向上が見られる反面、まったく学習に対する意欲を持たない生徒の固定化が見られ、格差が生じている。この解消が今後の大きな課題である。